

## 令和2年度第1回流山市史編さん審議会会議

- 1 日時 令和2年9月4日（金）  
午後2時から午後3時30分まで
- 2 場所 流山市立中央図書館会議室
- 3 出席者等  
(審議会委員)  
相原正義会長 山田友治副会長 小川浩委員 下津谷達男委員  
清藤一順委員 村田一二委員 鈴木誠委員 建部節子委員  
欠席：堀部昭夫委員  
(事務局)  
飯塚生涯学習部長 小栗博物館長 北澤博物館次長 上條学芸員  
伊藤学芸員 松本学芸員  
(傍聴者)  
なし
- 4 議題
  - (1) 令和2年度流山市史編さん事業について
  - (2) 恩田家文書目録の目録刊行について
  - (3) その他

## 令和2年度第1回流山市史編さん審議会会議録

(北澤次長)

定刻となりましたので、令和2年度第1回流山市史編さん審議会を開催いたします。

本日の進行を務めます、博物館次長の北澤です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

会議開催に先立ちまして、資料を確認させていただきます。先日送付いたしました「会議資料」のほか、本日配付いたしました「会議次第」、「座席表」、「委員名簿」です。不足資料はございませんか。また、企画展「流山の災害史」のチラシと、大畔中ノ割遺跡発掘現場見学会の資料をお配りしております。これについては、ご参考にしていただきたいと思います。

審議会の議事は公開が義務づけられております。会議録の作成のため、録音をさせていただきますので、ご了承願います。

また、発言は挙手の上、議長より指名がなされてから発言をお願いいたします。

ここで、本来であれば、田中教育長から皆様にご挨拶申し上げるところですが、本日は公務が重なり、欠席とさせていただきましたので、代わりに生涯学習部長よりご挨拶を申し上げます。

(飯塚部長挨拶)

(小栗館長挨拶)

(伊藤・松本両学芸員紹介)

(北澤次長)

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、相原会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(相原会長挨拶)

(北澤次長)

ありがとうございました。

流山市史編さん審議会条例第5条第3項の規程により、会議の議長は会長に

務めていただく事となっております。ここからは、相原会長に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(相原会長)

議事進行に先立ち、事務局に出席委員数の報告を求めます。

(北澤次長)

本日の会議につきましては、委員9名のところ、8名と過半数の出席をいただいておりますので、流山市史編さん審議会条例第6条第2項の規定により、会議が成立していることを申し添えます。

(相原会長)

会議成立ということですので、次第により議事を進行させていただきます。

それでは、議題(1)令和2年度流山市史編さん事業について、事務局より説明を願います。

(北澤次長)

それでは、議題(1)令和2年度流山市史編さん事業についてご説明いたします。

1、古文書解読事業について。寄贈・寄託された古文書や借用した古文書の解読を継続して進め、流山の歴史を明らかにするものです。

収蔵点数28,327点のうち、令和2年度は、中村家文書181点について解読を行っております。恩田家文書は9,125点のうち8,087点が終了しております。

2、市史啓発事業といたしまして、今年度も古文書講座を開講します。内容としては、古文書を解読しながら、江戸時代・明治時代の社会や文化について理解を深める講座を実施する予定です。

前期は全4回を予定しております。期日につきましては11月29日から12月20日までの計4回、講師は伊藤学芸員・松本学芸員が2回ずつ担当して実施する予定です。後期は徳川林政史研究所非常勤研究員の吉成香澄氏を講師にお招きして、1月30日から2月27日までの計3回で講座を実施する予定です。

こちらの講座につきましては、例年この中央図書館会議室を用いて約40名で実施しておりますが、新型コロナウイルスの影響もありまして、予定では定員を半分の20名程度に抑えて実施する方針です。

3、恩田家文書の寄託期間更新につきましてご説明いたします。令和2年4月

1日を以って、令和7年3月31日まで寄託期間を更新しました。今後、目録刊行に伴って利用が増加することが見込まれることから、恩田家文書の利用（閲覧・撮影・掲載）については博物館で可否を判断し、所蔵者に対しては更新時にその内容を書面で報告を行うことを、更新時に所蔵者と確認しました。

（相原会長）

只今の事務局からの「令和2年度流山市史編さん事業について」の報告について、ご質問・ご意見のある方はいらっしゃいますか。

（山田副会長）

古文書講座について、前期は明治時代をテーマにするとのことですが、史料は何を使うのでしょうか。

（伊藤学芸員）

市内の史料のなかから明治初年の廻状を用いて、徴兵規則について書かれている箇所を取り上げ、講座を進める予定です。近代の文書ですが、書かれている字は所謂くずし字です。

（松本学芸員）

同じく、市内の史料のなかから明治初年の廻状を用いて、戸籍編成事業関係の史料を取り上げ、講座を行う予定です。

（相原会長）

1、古文書解読事業のなかの中村家と恩田家について、場所の説明をお願いします。

（北澤次長）

中村家は三輪野山に所在し、三輪茂侶神社の向かいにあります。中村寛次家で、「宮前」という屋号です。

（小栗館長）

元町長の家です。

（北澤次長）

恩田家は思井村の名主を務めた家です。

(清藤委員)

古文書の解読はどのような体制で、頻度はどれくらいで行っているのですか。

(北澤次長)

会計年度任用職員3名で行っており、3名中2名が週4日勤務、1名が月10日ほどの勤務です。

(村田委員)

恩田家文書約9000点のうち約8000点の解読が終了したということですが、市史の資料として発刊するなどの予定はありますか。

(北澤次長)

現計画では、今年度に目録を刊行し、2年ごとに中、下と目録を刊行していく考えです。

以前の審議会でご相談したことでもありますが、中村家文書をはじめとして目録すらないものも非常に多く存在するため、翻刻よりも目録の形で先に出していきたいと考えています。

(相原会長)

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

ないようですので、次の議題に移ります。

議題(2) 恩田家文書目録の目録刊行について、事務局より説明願います。

(上條学芸員)

議題(2)の恩田家文書目録の目録刊行について、ご説明いたします。

1、仕様についてですが、件名が『恩田家文書目録(その1)』、数量は200部、規格はA4判、頁数は表紙・口絵・裏表紙を含め176頁を予定しております。印刷方法はオフセット印刷の黒一色刷り、用紙は表紙がレザック、口絵がコート紙、本文が上質紙、製本は背文字入り無線綴じを予定しています。

2、掲載範囲ですが、目録には史料全点を掲載するという事で前回の審議会でも結論が出たかと思しますので、そのようにいたしたいと思えます。

3、史料の公開・閲覧基準については、前回の審議会でも課題となっていましたので、事務局より提案させていただきたい点です。

(1) 史料については一部非公開の部分もあると条件を付ける。

(2) 一般化されている用語についてはそのまま掲載する。

(3) 閲覧の申請があった場合、いずれの申請者に対しても、地名や名字が

見えないようマスキングをして対応する。

(4) 申請の目的によっては全面非公開もありうる。

(5) いずれの申請者に対しても、発表前に掲載物に目を通させていただく。また、掲載物1部の博物館への寄贈をお願いします。

提案(1)、(2)については目録凡例に記載します。凡例は別紙資料の通りです。

以上が事務局よりの提案です。

(相原会長)

只今の事務局からの「恩田家文書目録の目録刊行について」の報告について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

(小川委員)

製本について、厚いと無線綴じは割れてしまいます。発刊から10年も経たないものでも割れてしまい、非常に使いづらいです。

費用の面の問題もあるのですが、綴じ方についても今後、考えてほしいと思います。

(下津谷委員)

目録はコピーされることが多い。コピーされることが多いと、無線綴じはすぐ割れてしまい、バラバラになります。お金の問題もあるのですが、考え直してほしいと思います。

(清藤委員)

目録に載せるのは全点が対象ですか。約9000点を170頁だと1頁あたり50点くらいになるのでしょうか。

(上條学芸員)

目録刊行では約9000点全てが対象ですが、「その1」では約3000点の掲載を予定しています。1頁あたり20点くらいになります。

(下津谷委員)

部数が200部とありますが、今まで博物館で出した刊行物と同じくらいでしょうか。寄贈分があると、100から150部は出ていくことになります。数に理由はあるのでしょうか。

(北澤次長)

200部には関係機関等への配布分も含んでいます。目録は通史と比べて市民が買う割合は小さく、かなりの部分が関係機関に行きますので、残りを一般に頒布するという方針です。

過去には400から500部を印刷していましたが、在庫がかなりできてしまいますので、現状では200部で印刷し、一般に売れるようであれば増刷する考えです。

(上條学芸員)

関係機関配布分は約150部です。

(相原会長)

部数の決定は難しいです。同じ何々家文書といっても、売れる家と売れない家とがあります。

在庫が余ると、どこに置くのかの問題も生じます。

(小川委員)

事務局から、売れ行きがよければ増刷、という話がありました。そのほうが賢明だと思います。

(相原会長)

一般市民の多くが読める内容ではないですから。通史なら、読みたいという人がいます。

(北澤次長)

一般向けの『ふるさと流山のあゆみ』『チェック！ 流山のむかし』は、年間で100部程度の売れ行きです。一般向けのものでそういう状況ですので、現状では200部程度がいい、という判断です。

(村田委員)

在庫の数について、情報提供としてお話しします。

『鎌ヶ谷市史』は3冊出るはずのうち、上巻の1冊だけしか出ませんでした。市民にも売れなかったので在庫が残っていました。役所につけあつて、なんとか売って次の本を出そうとしていました。

売れないものは残ってしまいます。本はずっと置いておくと朽ちてしまいます。在庫の有効活用をしてほしいと思います。横浜の埋蔵文化財センターでは、

平成30年以前のもを無料で配っていました。奈文研も報告書のデータベース化を進めていて、インターネットからダウンロードできるようになっています。

時代が変わってきているので、流山市でもそういうことができれば、と思います。

(鈴木委員)

恩田家文書について、一般人でも読めるような、通史のようなものが今後できるのであれば、それに興味を持った人からより本格的な文書にも目を通したい、という誘導になると思います。そういった、その先のことも考えてみると、在庫の話にも通じるものがあると思います。

提案(3)について、どこまでの範囲をマスキングするのでしょうか。

(小川委員)

大字・小字などで区切ることになると思います。

(鈴木委員)

差別に関わると判断される場所だけ、ということでしょうか。

(北澤次長)

差別的用語は目録の表題のなかにも散見されます。個人や地名が特定されるような場合もあるため、その部分はマスキングをします。

(相原会長)

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

ないようですので、事務局は目録作成の作業を進めてください。

(北澤次長)

委員の皆様からご意見が出ました無線綴じに関しては、これから印刷会社に発注することになりますので、対応できるよう仕様を検討し、刊行の準備を進めます。

(相原会長)

よろしく願いいたします。

次の議題に移ります。

議題(3)その他について、事務局より説明を願います。



(北澤次長)

来年度は『流山市史研究』24号の刊行を進めたいと考えています。

内容は前回の審議会で紹介いたしましたが、一昨年度の企画展「小金牧」の際に講演会の講師を務めていただきました高見澤氏の講演録のみが掲載を決定しております。それ以外は検討する、ということでした。一方、2本の投稿原稿が来ております。

投稿原稿については委員の皆様には査読をお願いしていましたが、これは本来の形ではありません。査読のあり方について、議論をしていただきたく思います。

過去、市史編集委員会を作り、『ふるさと流山のあゆみ』の刊行に際して内容の査読を進めていただいていたのですが、今はその機能が停止しています。24号は現状のまま委員の皆様をお願いするか、過去の編集委員会のように委員会を新たに立ち上げるのかなど、今日この場で結論を出すわけではありませんが、ご意見を聞き、考えたいと思います。

(相原会長)

事務局からの報告について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

(小川委員)

委員会を作ると煩わしくなります。内容も多岐にわたるため、基本的には審議会委員が査読をし、適わない場合は臨時委員に委嘱するのがよいのではないのでしょうか。

(相原会長)

23号には、事務局から掲載を断ったものがありました。

(北澤次長)

一般投稿のもの何本かの掲載を断りました。

(相原会長)

論文の質の問題で、こういうことについて若干調べたほうがいいのではないかと、というものもあれば、趣味的なものもあります。査読も大変な仕事です。掲載を断るのか、意見を付けるのかなど、24号の基本的な論文構成を査読者に当たった人が考えなければなりません。

(小川委員)

最近はどこも原稿が集まらないそうです。流山も2年に1回の刊行です。

寄稿は掲載しない、一般投稿とは分けるなど、二部制にするのはどうでしょうか。2本立てのほうが市民の方にも読んでいただけ、現代にマッチするかとも思っています。

(相原会長)

個人的、あるいは何人かで意見交換をしてみたほうがいいと思います。

発刊日は令和3年4月以降でしょうか。

(北澤次長)

年度末、令和4年3月までには刊行したいと思います。

小川委員のご提案は、専門的なものとそうではないものとを分けるということでしょうか。

(小川委員)

なんでもよいわけではありませんが。

市民のために開放していかないと、原稿そのものが集まりません。

(相原会長)

通常は研究論文の下に研究ノート、とあります。「聞き書き」や「〇〇の話」などとするのはどうでしょうか。

論文だけで構成するのは難しく、事務局だけでなく委員にもお願いしなければなりません。23号では、公募委員の方に書いていただきました。

(下津谷委員)

例えば、文化財関係で赤城神社の調査などを載せてはどうでしょうか。調査報告を『市史研究』のなかに取り入れるのはどうでしょうか。

坂道について、博物館友の会が出版しています。ああいったものは非常に面白いです。市民の方に昔を思い出して書いてもらうのはどうでしょうか。拾い書きというか、民俗的なものといえますか。

学会誌ではないので、査読して云々というのは難しい。研究的なもの載せつつ、柔らかい感じのもので流山に関係のあるものを記録して載せていくと面白いと思います。

二本立て、三本立てで編集することを考えたらいいかと思います。そうしないと原稿が集まりません。

(相原会長)

聞き書きを博物館友の会が行っています。

出かけて、聞いて、実態を把握して書く。新しいものでは博物館友の会の『東葛坂道事典』があります。博物館友の会では坂道の次を考えていますが、そういうものを地域の人に依頼して書いてもらうのも一つの方法かと思います。

コロナが今大きな問題ですが、天然痘、疱瘡神について書いてもらうなど、いろいろとあります。明治の出版物にはこの近辺の風土病としてマラリアが多く挙げられています。

印旛沼・手賀沼のあたりにマラリアが多く、マラリアで亡くなった方が非常に多かったようです。他にも、日本住血吸虫が利根川周辺で多かったようです。これは『千葉県東葛郡誌』に出ています。今はなくなりましたが、温暖化でまた世界的に住血吸虫が広がるだろうと言われていています。

そういう歴史的なものを今のうちに記録していくことも必要だと思います。そんなに長い文章ではなく、せいぜい原稿用紙4、5枚か5、6枚。そういうことを調査して、書いてもらうのはどうでしょうか。

コロナ時代と言われます。そういうものを出しておく、あとでふりかえることができます。いろいろなことを考えて、案を出してもらいたいと思います。

(北澤次長)

今までの体裁にこだわらない、地域のことを取り上げる、という方針が示されました。一般市民が買ってくれるものを目指すということで、どういうものだったら購入したくなるか、鈴木委員と建部委員にもご意見をいただきたく思います。

(小川委員)

あまりにも一般向け重視だと、市史研究として外に出したときに恥ずかしいものになってしまいます。論文・研究ノートレベルのものが1本はないといけません。あまり一般向けにウエイトを置くのであれば、違う媒体にすべきだと私は思います。

(相原会長)

いろいろな工夫すると、いろいろな方に書いていただけるということですね。

私が住んでいる向小金にはオビシヤがあって、オビシヤのあとには当番の人が腰のところに8の字状にした縄を下げているんです。20年くらい前に、何ですかと聞いたら、「辻切り」だと言っていました。そのときはじめて聞きました。

国府台には立派な辻切りがありますが、細い縄に幣束をつけて歩いているんですね。これは村境に置いて、コレラや天然痘が入ってこないように5箇所置く  
と聞いて、へえと思って書いたことがあります。

自分の村に伝染病を入れない、ということがずっと伝わってきたわけです。よその村はどうでもいいということではありませんが。明治以前あるいは明治以後も自分の村をどう守るか、ということがありました。他にもあると思います。

(小川委員)

今でも行われています。お祭りのときに4箇所、東西南北に置きます。  
虫送りも行われています。

(相原会長)

時代に合わせたものも、多くの人に書いておいてもらうということがいいか  
と思います。一つの案です。

(清藤委員)

24号に限らない話ですが、『市史研究』のあり方として、現在の状況のなか  
で通用するのか、根本的などころを市で検討してもらいたいと思います。

(相原会長)

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。  
博物館長より一言お願いします。

(小栗館長)

これまでのご審議、ありがとうございました。  
審議委員の皆様は、9月30日で今期の任期が満了します。小川委員、下津谷  
委員、堀部委員、公募委員2名の方は今回でご退任となります。ありがとうございました。

(相原会長)

退任される委員の皆様、一言お願いします。

(下津谷委員挨拶)

(小川委員挨拶)

(鈴木委員挨拶)

(建部委員挨拶)

(北澤次長)

本日はご欠席ですが、堀部委員におかれましては、今期で退任されることになりました。

(小栗館長)

広報ながれやま(7月11日号)には、次期の公募委員の募集が掲載され、現在審査を進めております。小川委員、下津谷委員、堀部委員、公募委員以外の皆様には、引き続き審議委員を継続していただきますよう、よろしく願いいたします。

(相原会長)

他に何かありませんか。

ないようですので、事務局にお返しします。

(北澤次長)

皆様には、長時間にわたりご審議いただきまして、ありがとうございました。

『市史研究』の投稿論文2本を配布いたします。内容について、次回の審議会で審議をお願いいたします。

以上をもちまして、令和2年度第1回流山市史編さん審議会を閉会します。お疲れ様でした。